

こども 部会

部会長 丸山志野 副部会長 金井隆純 執行委員 塩手奈緒子
執行委員 山口莉多(ひまわりの会) 執行委員 宮澤俊樹 執行委員 木下佑美香
執行委員 府川祐一 療育 C 木下佑美香 療育 C 安川健治 教育相談 伊藤史佳
運営委員会担当者 木下香織 ケアマネ連絡会担当者 熊谷恵子・瀧澤真紀
長野市障害福祉課担当者 松平順子・細野明生

1、年間テーマ

お互いを知り合う事で“連携”を深める。
乳幼児期、学齢期やこどもの居場所の現状把握と課題抽出。

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
6	17	にじいろキッズらいふ	36名	放課後等デイサービス 北部事業所連絡会	合同説明会について 報酬改定について(意見交換)
6	21	にじいろキッズらいふ	58名	放課後等デイサービス 南部事業所説明会	放課後等デイサービスの役割について 各事業所紹介 個別相談会
7	12	にじいろキッズらいふ	27名	児童発達支援事業所連絡会	今抱える課題について(意見交換) 報酬改定について
10	10	にじいろキッズらいふ	80名	乳幼児期支援合同勉強会	作業療法士による 『遊びから育つこどもの力』について とグループワーク
10	31	柳原交流センター	74名	放課後等デイサービス 北部事業所説明会	放課後等デイサービスの役割について 各事業所紹介 個別相談会
1	28	にじいろキッズらいふ	75名	学齢期支援連携会議	こどもの放課後の生活を支援している 方々で集まり情報交換

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

・情報ツウーの発行

→今年度は、情報ツウーの需要が高まった事で増刷を行った。一方、物価高騰の影響で単価が上がり、内容の精査が必要となった。

令和6年度 事業報告

4、課題について

(1)主な検討課題

学齢期 : ・報酬改定から見える事業所運営や支援の方向性の課題の共有
・放課後等デイサービスの支援や役割についての共通認識と課題の共有
・児童センター、プラザの支援員、行政、福祉が集まり、地域の課題の共有

乳幼児期: ・報酬改定による体制整備や支援の方向性等の課題の共有
・乳幼児期の『遊びから育つこどもの力』をテーマに感覚統合の視点で子どもの育ちを参加者みんなで考え、グループワークで課題を共有。
また、支援のアイディアを出し合い共有した。

(2)検討の目的と結果(現状)

学齢期 : 保護者や関係者対象の放課後等デイサービス説明会を実施。正しい情報や各事業所の活動内容を知る機会として良い場となった。併せて事業所間での意識統一や横の連携も図ることができ、良い機会となった。

: 児童センターやプラザ、こども財団、行政、放課後等デイの職員が集まり、課題抽出を目的に連絡会を開催した結果、センターやプラザでは、多様なこどもたちへの支援の方向性に課題を感じている事がわかり、連携の仕組みの構築、支援者の支援について共有できる良い機会となった。

乳幼児期: 保育所等、児童発達支援事業所が参加し、感覚の視点から見たこどもの育ちについての研修を行い、特性のあるこどもへの支援の工夫の共有や現状の課題の把握など、ワークなどを通して共有することができた。研修だけではなく、参加者同士が悩みの共有、支援の工夫の共有ができ、有意義な機会となったとアンケートからも見て取れる。発達支援の工夫の実践例も参加者から沢山出された。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

学齢期 : 放課後等デイサービスの役割の認識、学校や医療機関などの関係機関との連携が課題。学齢期のこどもたちの居場所についてや地域移行も含め課題である。

令和6年度 事業報告

乳幼児期:障害のある子もない子もすべてのこどもたちが安心安全に過ごせる地域づくりと、合理的配慮が当たり前になるための仕組みが大切。こども誰でも通園や保育所等の中で児童発達ができる流れになりインクルーシブの流れになっているが、合理的配慮がなされていない状況でのインクルーシブ化の懸念がある。

一般こども施策(行政)と福祉の連携(これからの長野に必要な仕組みづくりのための)が必要であり課題である。

(4)部会の運営体制について

・現在、障害福祉課が中心となり執行部に参画いただいているが、多様なこどもたちは福祉を使っているとは限らず一般こども施策の中でも、困り感を抱えて困っているこどもたちが多く存在する昨今、こども未来部、保育・幼稚園課、こども政策課、子育て家庭福祉課、学校教育課、長野市保健所健康課(母子保健担当)などの課が、地域の課題解決のためにこども部会に参画する運営体制になるよう協議していただきたい。

・学齢期では、放課後の子どもの居場所について体制整備が必要。そのためにも、やはり学校教育課、こども政策課等の行政の参画が必須であるため、体制整備を行いたい。

5、総括(1年間を振り返って)

今年度は、児童福祉法改正で報酬改定があり、支援時間についてや、5領域の視点での支援の見直し、大幅に加算なども変わり、現場は様々な混乱があった1年となりました。

こども部会では、児童発達支援、放課後等デイサービスの連絡会を開き、報酬改定への対応についてや、支援について等の課題について話し合いを行いました。

乳幼児期は、感覚の視点から見たこどもの育ちをテーマに、児童発達支援事業所の支援者と保育所等の先生方が数多く参加し、こどもに関わる行政の方にも沢山参加していただきながら、オンラインにて研修とグループワークができました。

学齢期については、放課後等デイサービスの役割について支援者に共通認識を持ってもらう事を目的として、さらに事業所説明会も実施し、各事業所を知り合う事で、支援者同士が連携を深める機会となりました。

また、今年初の試みで、放課後等デイサービスの福祉サービスの支援者と、児童センターやプラザの支援員の方々、こども財団、行政の方々にも参加していただき、多様なこどもたちへのより良い環境づくりや支援についてや課題について話し合う会議を開催しました。

保育、教育、行政そして、こどもたちの居場所支援に携わる方々との会議や研修を企画・実施して感じた事は、やはり顔見知りになる事！の大切さを実感しました。お互いを知り合う事で、そこには“連携”が生まれます。この理解と連携が、すべてのこどもたちとその家族が安心安全に過ごせる地域になるので、こども部会の担う大切な役割だと感じました。